

2021 年度

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

教育奨励基金「学習・研究奨励金」

学習・研究成果報告書

展示「アフリカの森」 イベント「秋祭り」

@東京夢の島熱帯植物館

慶應義塾大学

グループ名：SFC アフリカ研究会

代表者：中島彩夏

指導教員名：國枝美佳

## プロジェクト概要

東京都夢の島熱帯植物館にて、展示・イベント企画「アフリカの森と秋祭り」を11/3-11/23の20日間にかけて開催。今回の活動は、植生と深く関わりを持つアフリカの文化や、アフリカと日本の文化の共通点を紹介し、来場者がアフリカへの理解を深め、アフリカの森林を守るための主体的行動を促すことを目的に企画。(図1)

アフリカの植生というテーマから、家具、衣服、食べ物、楽器、遊びなど自然と深い関わりをもつアフリカの文化を幅広く紹介。ただ見るだけの展示ではなく、聴覚や嗅覚、触覚など五感を刺激して、日本人にとって普段馴染みのないアフリカをより身近に感じてもらえるよう工夫した。そして、アフリカの森を守ることの重要性を実感してもらい、来場者の行動変容を促すために、展示の最後には「森のためにできること」と題してバオバブの葉型に寄せ書きをしてもらうブースを設置した。(図2)



図1：企画展示ポスター



図2:バオバブの寄せ書きブース

今回の展示に際して、SFC やアフリカに関連する様々な企業・団体に協力していただきました。企画展に協賛していただいた企業・団体の活動内容も紹介することで、よりアフリカと日本の関わりを知ってもらえる空間づくりを行なった。(図3)

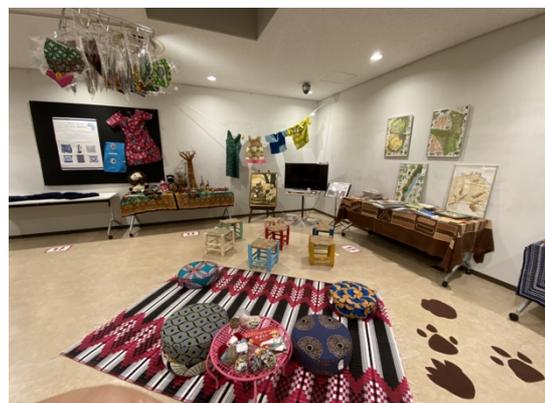


図3：展示会場の様子

## 効果

展示では、来場者から「馴染みがないと感じていたアフリカの文化を身近に感じる事ができた」などの声をいただいた。共通点を見つけることでア

フリカの暮らしをより身近に感じて  
 もらえた。展示の最後のバオバブの葉  
 の寄せ書きブースには、実際に行動変  
 容につながるコメントが書かれてい  
 たものはほとんどなく、来場した人の  
 年齢層が、想定よりも低かったことな  
 どが要因であったと推察される。この  
 反省をもとに次回の展示では来場者  
 の分析を入念に行う。イベントについ  
 ても来場者にアンケートを実施した。  
 「子どもが楽しめているようでよか  
 った」「アフリカの文化に触れられる  
 貴重な機会だった」などのポジティブ  
 なコメントがほとんどであった。ボー  
 ドゲームのマンカラは大人も夢中にな  
 れて、子どもを中心に幅広い年齢層  
 の方々に楽しんでいただけた。私たち  
 の生活とアフリカの文化を身近に感  
 じられる機会になったと推測する。  
 (図 4,5)

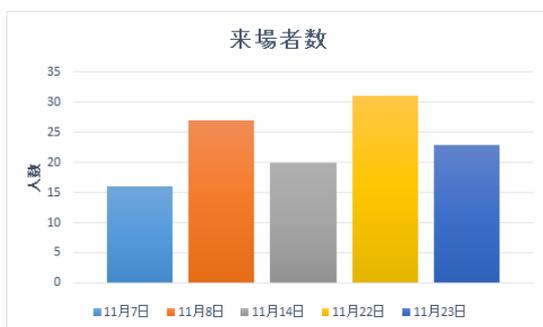
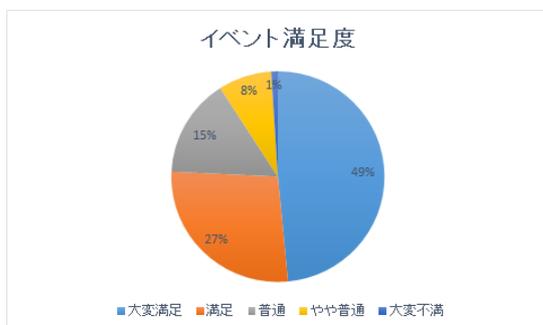


図 4,5:来場者アンケートの結果

一方で、説明の不足や、内容の難し  
 き、各ブースの時間配分についてご  
 指摘をいただいた。今回の反省点を  
 活かして次回は丁寧でスムーズな運  
 営を行う。

2021年4月29日~5月5日には、今  
 回の展示に協賛していただいたハー  
 ロムアロムを運営する SFC の先輩の  
 姉妹会社である OUT OF AFRICA と  
 共同で、京急百貨店上大岡店のワー  
 ルドインポートバザールにて展示企  
 画を開催。OUT OF AFRICA が販売  
 する MABIO のエッセンシャルオイ  
 ルと SDGs との繋がり、産地である  
 マダガスカルについての説明パネル  
 を作成し、展示を行なった。(図 6)



図 6:パネル設営時の様子

### 謝辞

本研究活動は、慶應義塾大学湘南藤  
 沢キャンパス教育奨励基金「学習・  
 研究奨励基金」の助成により行われ  
 ています。慶應義塾大学湘南藤沢キ  
 ャンパス教育奨励金事務局様、並び  
 に城南信用金庫様に心からの感謝を  
 表します。